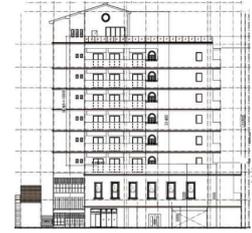


# CASBEE®-建築(新築)

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)大商新マンション建築工事	階数	地上9階
建設地	埼玉県戸田市	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域・防火地域	平均居住人員	106 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,集合住宅,工場,等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年1月 予定	評価の実施日	2023年11月1日
敷地面積	726 m <sup>2</sup>	作成者	大嶋憲明
建築面積	534 m <sup>2</sup>	確認日	2023年11月10日
延床面積	3,004 m <sup>2</sup>	確認者	大嶋憲明



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

#### Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

#### Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

#### LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.0

#### LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6

#### LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 2.9

3 設計上の配慮事項		
総合	地域環境や計画敷地の形態を最大限に生かして省エネルギーや環境負荷の軽減に努めた。	
その他	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
建築材料は告示対象外や規制対象外(F☆☆☆☆)を積極的に採用して空気環境に配慮した。	材料の選定には建物の機能を考慮して耐久性、防汚性の高い材料を検討した。また、構造躯体に関しては住宅の品質確保の促進に関する法律(日本住宅性能表示基準、3.劣化の軽減に関する事)におけるコンクリートの評価方法基	0
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物の熱負荷制御に配慮した。また、共同住宅の各住戸においては日本住宅性能表示基準「5-1 断熱等性能等級」における等級4を超える水準の断熱性能を満たす性能とした。	0	0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(仮称)大商新マンション建築工事**

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.7</b>
<b>Q1 室内環境</b>							<b>0.39</b>			<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>						<b>2.1</b>	0.15	<b>2.7</b>	1.00	<b>2.4</b>
1.1 室内騒音レベル						<b>3.0</b>	0.50	<b>3.0</b>	0.50	
1.2 遮音						<b>1.2</b>	0.50	<b>2.4</b>	0.50	
1 開口部遮音性能						1.0	0.88	1.0	0.30	
2 界壁遮音性能						3.0	0.12	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音						-	-	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>						-	0.35	<b>3.3</b>	1.00	<b>3.3</b>
2.1 室温制御						-	-	<b>3.7</b>	0.50	
1 室温						-	-	3.0	0.63	
2 外皮性能		日本住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」等級4超の性能				-	-	5.0	0.38	
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	
2.2 湿度制御						-	-	<b>3.0</b>	0.20	
2.3 空調方式						-	-	3.0	0.30	
<b>3 光・視環境</b>						<b>3.0</b>	0.25	<b>2.8</b>	1.00	<b>2.9</b>
3.1 昼光利用						-	-	<b>2.4</b>	0.30	
1 昼光率						-	-	3.0	0.50	
2 方位別開口						-	-	1.0	0.30	
3 昼光利用設備						-	-	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						-	-	<b>3.0</b>	0.30	
1 昼光制御						-	-	3.0	1.00	
3.3 照度						-	-	<b>3.0</b>	0.15	
3.4 照明制御						<b>3.0</b>	1.00	<b>3.0</b>	0.25	
<b>4 空気質環境</b>						<b>1.0</b>	0.25	<b>3.6</b>	1.00	<b>2.3</b>
4.1 発生源対策						-	-	<b>4.0</b>	0.63	
1 化学汚染物質		規制対象外(F☆☆☆☆)を採用				-	-	4.0	1.00	
4.2 換気						-	-	<b>3.0</b>	0.38	
1 換気量						-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能						-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						-	-	3.0	0.33	
4.3 運用管理						<b>1.0</b>	1.00	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視						1.0	1.00	-	-	
2 喫煙の制御						-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.1</b>	0.40	<b>3.0</b>	1.00	<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ						<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	0.60	
1 広さ・収納性						-	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応						-	-	3.0	1.00	
3 バリアフリー計画						3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性						<b>1.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	0.40	
1 広さ感・景観						-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース						-	-	-	-	
3 内装計画						1.0	1.00	3.0	0.50	
1.3 維持管理						<b>2.0</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		日本住宅性能表示基準「3-1 劣化対策等級(構造躯体)」等級3相...				5.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						<b>2.8</b>	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						2.0	0.20	-	-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.0</b>	0.30	<b>3.6</b>	1.00	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.09	<b>4.2</b>	0.50	
1	階高のゆとり	共同住宅の階高3.0m以上	-	-	5.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		3.0	1.00	3.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.09	<b>3.0</b>	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.0</b>	0.82	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.31	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	<b>2.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.2</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		日本住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」等級4超の性能	<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>2.3</b>	0.10	-	-	<b>2.3</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = - BEIm: 0.38	<b>5.0</b>	0.50	-	-	<b>5.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.8</b>	0.20	-	-	<b>2.8</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.5</b>	0.30	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>1.1 節水</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>2.9</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		ライフサイクルCO2排出率 70%	<b>4.1</b>	0.33	-	-	<b>4.1</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.33	-	-	<b>2.0</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>1.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>2.7</b>	0.33	-	-	<b>2.7</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>1.6</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

## 1 建物概要

建物名称	(仮称)大商新マンション建築工事	BEE	1.0	BEEランク	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	-----

## 2 重点項目の評価

ライフサイクルCO <sub>2</sub> の削減のスコア		緑の保全・創出のスコア		= 5.7	
4.1	+	1.6			
重点項目の各スコアの合計点					
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 		

## 3 重点項目についての環境配慮概要

<b>(1) ライフサイクルCO<sub>2</sub>の削減</b>		スコア平均	4.1
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	4.1
LCCO <sub>2</sub> 排出率70%			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	1.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア	2.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア	1.0

:入力欄